

### 隅田川散歩 (三) 千住大橋

長尾 進一郎

隅田川の起点である北区の岩淵水門から、下流に向けて歩いて来た。小台橋を過ぎ、六番目の橋である尾久橋の付近で隅田川は再び荒川に接近する。尾久橋の下流側に新交通の日暮里・舎人ライナーの高架橋が隣接し、隅田川と荒川を越えて北へ延びている。今日は空気が澄み、川の上流方向に奥多摩や秩父の山々も見えて気持ちが良い。

次の尾竹橋を過ぎて、蛇行する川沿いを二キロメートルほど歩くと、日光街道に架かる千住大橋に出る。一五九四年に徳川家康が隅田川に最初に架けた橋とされる。現在の橋も昭和二年建造で九四年の歴史があり、リベットの多い武骨な姿である。

左岸のたもとに、松尾芭蕉が奥の細道の旅に出発した地として、説明書きが掲げられている。深川から舟で隅田川を遡上し、千住から徒歩で奥州方面に向かった。大勢の知人に見送られ、後ろ髪を引かれる思いで出立したらしく、心境を「行春や鳥啼魚の目は泪」と詠んだと記されている。

次の千住汐入大橋のあたりで川は右に一八〇度近く大きく曲がる。左岸に荒川と連絡する旧綾瀬川が合流し、これを境に左岸は足立区から墨田区となる。

隅田川を行き来する船を見ていて、昭和三〇年代にNHKで放映された「ポンポン大将」という番組を思い出した。桂小金治さんが演ずる隅田川のポンポン船（焼玉エンジン船）の船長の、人情味溢れる連続ドラマだ。「川風吹け吹け船船走れ…」で始まる主題歌を覚えていた位だから、頻繁に見ていたのだろう。下町を流れる隅田川の映像が記憶に残っている。

これまで蛇行を繰り返していた隅田川は、一〇番目の水神大橋から下流は比較的真っ直ぐな、風格を感じられる流れとなる。右岸は緑の堤防上に遊歩道が続き、川を見下ろしながらの快適なウォーキングコースだ。スカイツリーが次第に大きくなってくる。白髭橋を左岸に渡り、一〇分ほど歩いて白髭神社に参拝する。隅田川七福神の一つで、静かな雰囲気のお社だ。白髭橋を境に右岸は荒川区から台東区に入る。(つづく)